

飼料用米「まいひめ」栽培暦（山間高冷地版）

★収量目標★
収量：650～750kg/10a

○栽培地帯：県内山間高冷地

福島県水田畑作課

	3月		4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月																	
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬																
生育	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>移植期</div> <div>分けつ期</div> <div>幼穂形成期</div> <div>減数分裂期</div> <div>出穂期</div> <div>成熟期</div> </div>																																				
主な作業	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>塩水選浸種催芽</div> <div>播種</div> <div>育苗管理</div> <div>田植え</div> <div>草刈り</div> <div>秋耕</div> </div>																																				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>耕起</div> <div>代かき</div> <div>除草剤散布</div> <div>（葉いもち粒剤）</div> <div>穂いもち防除</div> <div>カメムシ防除</div> <div>収穫乾燥調製</div> </div>																																				
栽培上の要点	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>土壌改良資材 基肥施用</div> <div>箱施薬散布 （殺虫・殺菌剤）</div> <div>穂肥</div> </div>																																				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div><<水管理>></div> <div>活着まで深水</div> <div>浅水管理で分けつ促進</div> <div>中干し</div> <div>間断かんがい （低温時深水管理）</div> <div>出穂期花水</div> <div>間断かんがい</div> <div>落水</div> </div>																																				
栽培上の要点	<p>○品種特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期：「里山のつぶ」より1週間程度早い。 ・成熟期：「里山のつぶ」より2週間程度早い。 ・耐倒伏性：「強」 稈長は「里山のつぶ」並で倒れにくい。 ・いもち病ほ場抵抗性： 葉いもち「やや強」 穂いもち「中」 ・障害型耐冷性：「強」（※） （※）品種特性は旧基準に準拠。 ・茎数：「里山のつぶ」並～少。 ・玄米千粒重：23g程度。 ・収量性：多収。やや多肥栽培が適する。 ・注意点：登熟が緩慢で、穂基部の籾の黄化が遅れる可能性がある。 <p>○土づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲わらは野焼きせず、秋耕により鋤き込む。また、堆肥や土壌改良資材を施用して、地力向上に努める。 <p>○団地化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の効率化、主食用米への混入防止のため、できるだけ団地化に努める。 							<p>○種子予措</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入種子も必ず塩水選（比重1.13）を実施。 <p>○播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾籾100g/箱を基準として播種。 <p>○移植</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒長した苗や老化苗にならないよう管理する。 ・栽植密度は30×16cm（坪70株）が基本。 ・栽植密度が高いほど穂数や籾数も多く確保されるため、疎植を避け、密植とする。 ・風のない暖かい日に移植する。活着したら浅水管理とし、有効茎の早期確保に努める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆施肥体系</p> <ol style="list-style-type: none"> ①窒素施肥量の目安 基肥8kg/10a+穂肥2kg/10a ②穂肥は幼穂形成期（幼穂長1.5mm程度）。 ③生育に応じて、減数分裂期（葉耳間長-10cm程度）に2kg/10a </div> <p>○いもち病防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「稲」に登録のある農薬を使用し、予防防除する。もみ米やもみ殻を家畜に給与する場合は、出穂以降に使用できる農薬に限られるので、必ず確認してから使用する。 ・周辺の主食用米ほ場へ影響を及ぼさないよう、適期に防除を行う。 							<p>○低温時の水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂形成期以降、低温時には深水管理を行い、保温に努める。幼穂形成期で5cm、減数分裂期では15～20cmの水深が必要。 <p>○カメムシ防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畦畔の草刈りは出穂10日前までに実施。出穂後は草刈りを行わない。 ・「稲」に登録のある農薬を使用し、予防防除する。もみ米やもみ殻を家畜に給与する場合は、出穂以降に使用できる農薬に限られるので、必ず確認してから使用する。 ・周辺の主食用米ほ場へ影響を及ぼさないよう、適期に防除を行う。 <p>○立毛乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立毛乾燥によりほ場でもみ水分を15～17%程度まで減少させ、収穫後に乾燥機で玄米水分を15%にする。 <p>☆生育目標</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>項目</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">幼穂形成期</td> <td>茎数（本/㎡）</td> <td>500～650</td> </tr> <tr> <td>収量（kg/10a）</td> <td>650～750</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成熟期・収穫期</td> <td>穂数（本/㎡）</td> <td>420以上</td> </tr> <tr> <td>もみ数（万粒/㎡）</td> <td>3.7以上</td> </tr> <tr> <td>登熟歩合（%）</td> <td>82以上</td> </tr> </tbody> </table>								時期	項目	目標値	幼穂形成期	茎数（本/㎡）	500～650	収量（kg/10a）	650～750	成熟期・収穫期	穂数（本/㎡）	420以上	もみ数（万粒/㎡）	3.7以上	登熟歩合（%）	82以上
	時期	項目	目標値																																		
幼穂形成期	茎数（本/㎡）	500～650																																			
	収量（kg/10a）	650～750																																			
成熟期・収穫期	穂数（本/㎡）	420以上																																			
	もみ数（万粒/㎡）	3.7以上																																			
	登熟歩合（%）	82以上																																			